

群馬県における流域一体となった総合的な浸水対策の推進(防災・安全)

群馬県の現状

群馬県では、434本の河川を管理しており、一定の降雨に対して安全に洪水を流せるように、護岸・堤防等の整備を進めています。しかし、河川の整備には多くの時間と費用を要することから、改修が必要な区間の進捗率は約3割程度となっています。

一方で、近年、気候変動の影響等により、水害等の気象災害が、頻発化・激甚化しており、令和元年東日本台風では、県西部で観測史上1位の24時間雨量を観測し、県全域で全半壊300棟、一部破損439棟、床上床下浸水被害134棟の甚大な浸水被害が発生しました。

課題

頻発化・激甚化する水害により、再度の災害を防ぐため、河川改修の必要性が一層増加しています。また、都市化が進んだ地域では、人口・資産が集中し、甚大な被害が想定されます。

このため、厳しい財政状況の中、限られた予算により効率的かつ効果的な河川整備が求められています。

目的

水害等の気象災害の頻発化・激甚化や都市化の進展に伴う被害リスクの増大に対し、調節池や河川整備に加え、既設堤防の強化や河川内の支障木伐採・堆積土除去など、各流域において総合的な浸水対策を実施することにより、水害に強い県土をつくとともに安全安心な県民生活を確保します。

事業の指標

指標1 計画確率規模の降雨による河川の氾濫により、浸水被害を受ける恐れのある区域の面積の低減

当初値:87.8km²(H27) ⇒ 目標値:71.2km²(R1末)

指標2 河川の要改修延長に対し、時間雨量50mm又は1/5確率以上の降雨規模に対する安全性が確保された延長の割合

当初値:34.2%(H27) ⇒ 目標値:35.7%(R1末)

指標3 堤防点検における要対策区間に対し、安全度を確保した区間の割合の向上

当初値:23.0%(H27) ⇒ 目標値:38.3%(R1末)

成果と達成度報告

指標1 浸水被害を受ける恐れのある区域面積は**17.9km² 減少し69.9km²**
目標値を1.3km² 上回り、**目標を達成**

指標2 安全性が確保された河川延長の割合は**1.7%増加し35.9%**
目標値を0.2%上回り、**目標を達成**

指標3 安全度が確保された堤防延長の割合は**36.0%増加し59.0%**
目標値を20.7%上回り、**目標を達成**。
これは、補正予算により、石田川ほか2河川の対策が完了し、進捗が進んだことによる

群馬県における流域一体となった総合的な浸水対策の推進(防災・安全)

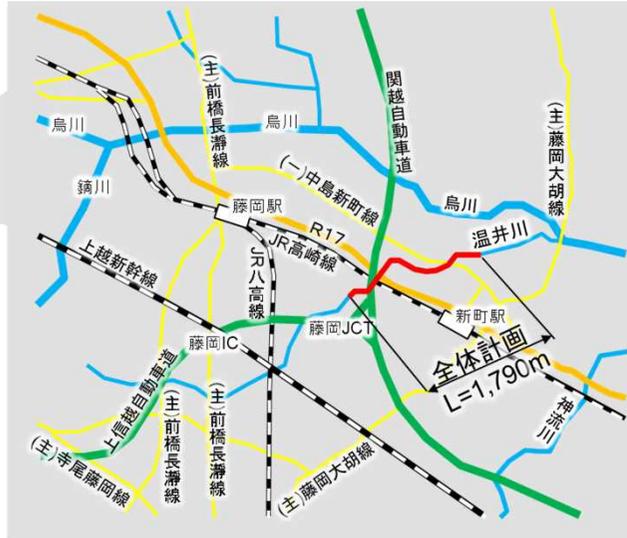
課題と成果

整備の事例

整備効果事例

事例① 総合流域防災事業 一級河川 温井川

■位置図



箇所名：
高崎市新町～藤岡市立石

■整備効果

整備前



H11年8月の出水状況

川幅が狭く、出水により浸水被害が発生した(床上浸水20戸)。

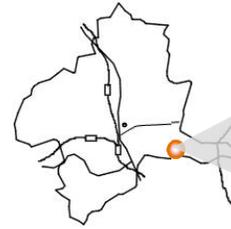
整備後



川幅が広がり、浸水被害の軽減が図れ、R1東日本台風でも被害が発生していない。

事例② 総合流域防災事業 一級河川 石田川

■位置図



箇所名：
太田市下田島町ほか

■整備効果

整備前



堤防幅の不足や、流水が堤防に浸透することで強度が低下し、安全度が低かった。

整備後



堤防幅の増強やブロック張りにより、堤防が強化され、安全度が確保された。